

松嶋夜話 卷之下 一七

〔原文〕先師恒所闕教説只不出楞嚴楞伽等中

〔訓読〕先師恒に闕する所の教説、只楞嚴楞伽等の中を出でず

〔原文〕或時謂余曰

〔訓読〕或る時余に謂いて曰く

〔原文〕汝知楞伽經也

〔訓読〕汝、楞伽經を知るや

〔原文〕説一乗與二乗非乗我所説

〔訓読〕一乗と二乗とあるも、非乗のみ我が説く所と説く

〔原文〕此故達祖雖曰單傳直旨不立文字又曰

〔訓読〕此の故達祖、單傳直旨不立文字と曰ふと雖も、又た曰く

〔原文〕吾有楞伽四卷

〔訓読〕吾に楞伽四卷有り

〔原文〕蓋此經盡斷一切妄惡

〔訓読〕蓋し此の經一切の妄惡を盡く斷ちて

〔原文〕可以證頓悟之妙心也

〔訓読〕以て頓悟の妙心を證すなり

〔原文〕汝好讀之

〔訓読〕汝好く之を讀む

〔原文〕又或時曰

〔訓読〕又或時曰く

〔原文〕汝知金剛能斷般若也

〔訓読〕汝、金剛能斷般若を知るや

〔原文〕昔年六祖聞應無所住之處豁然大徹

〔訓読〕昔年六祖應に住む所無すべき處を聞きて、豁然として大徹す

〔原文〕汝平生無所住生其心一生心行不舛

〔訓読〕汝平生住む所無くして其の心を生せば一生の心行舛(たが)はず

〔原文〕汝好讀之又或時曰

〔訓読〕汝好く之を讀め、又或時曰く

〔原文〕汝知楞嚴經也

〔訓読〕汝楞嚴經を知るや

〔原文〕昔日洞水先師在富山時適採此經

〔訓読〕昔日洞水先師富山に在りし時、適たま此の經を採る

※洞水(一六〇五～一七一)：日向国飢肥(宮崎県日南市)出身。幼時に出家し、江戸東禅寺嶺南の元から仙台覺範寺清岳に師事した。

〔原文〕於空生大覺中如海一漚發

〔訓読〕空大覺中に生ずれば、海に一漚發するが如きというに於いて

〔原文〕心眼廓開

〔訓読〕心眼廓開す

〔原文〕苟要知先翁之意

〔訓読〕苟も先翁の意を知らんと要せば

〔原文〕汝好讀之

〔訓読〕汝好く之を讀め

〔原文〕汝克闕宗鏡錄也

〔訓読〕汝克く宗鏡錄を闕すや

※『宗鏡錄』(すぎょうろく)：中国五代十国時代の呉越から北宋初の僧の永明延寿が撰した仏教論書、一〇〇卷。961年の成立である。

〔原文〕其錄含函一大藏總統萬法論

〔訓読〕其の錄、一大藏を含函し、萬法論を總統す

〔原文〕然宗一切唯一心

〔訓読〕然れども一切唯一心を宗とす

〔原文〕不讀則不知佛教深旨

〔訓読〕讀まざれば則ち佛教の深旨を知らず

〔原文〕汝好讀之又或時曰

〔訓読〕汝好く之を讀め、又或時曰く

〔原文〕汝取中峯廣錄也

〔訓読〕汝、中峯の廣錄を取るなり

〔原文〕夫如中峯古來諸善知識中第一人知識也

〔訓読〕其れ中峯の如きは、古來諸の善知識の第一人の知識なり

〔原文〕始終到處住幻住

〔訓読〕始終到處、幻住に住む

〔原文〕說法廣遠

〔訓読〕說法廣遠なり

〔原文〕克教諸有情識破浮幻榮辱得失等之相

〔訓読〕克く諸の有情をして、破浮、幻榮、得失の相を識破せしむ

〔原文〕余三百歲下獨慕蘭此老

〔訓読〕余三百歲の下、獨り此の老を慕蘭し

〔原文〕以幻幻自稱

〔訓読〕幻幻を以て自ら稱す

〔原文〕處幻世永離幻世

〔訓読〕幻世に處し、永く幻世に離なる

〔原文〕吾滅後要知我

〔訓読〕吾滅する後、我を知らんと要す

〔原文〕汝好讀此錄

〔訓読〕汝好く此の錄を讀む